

【 復活のトロパリ 第7調 】

ハリスト オスカ みよ、なんぢはじゅうじかにてしを
 神 爾 十 字 架 死
 ほろぼし、とうぞくのためにくえんをひ
 滅 盗 賊 爲 樂 園 開
 らき、けいこうぢよのかなしみをなぐさ
 攜 香 女 悲 慰
 め、しとになんぢがふくか つして、せか
 使 徒 爾 復 活 界
 いにおおいなるあわれみをたまいしをつたえ
 大 憐 賜 傳
 させたまえり。
 給

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しとひとしくどうざなるもの、ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠
 じつにしてしちなるハリスト スのえきしゃ、せい
 實 神 智 役 者 聖
 なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛
 にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しよ お しゃ、あしとしゆきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教聖
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及
 ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生命 賜 聖
 さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこいとせいしんにき
 光 榮 父 子 聖 神 歸
 す、
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
 成 聖 者 亜使徒聖 我
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受
 しに、なんぢははじめわがくににおいておの
 爾 初 我 國 於 己
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
 外 來 者 知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなをし、かれらにか
屬 神 子 爲 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩 寵 與 教 會 建

たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今 此 教 會 爲 祈

たまえ、けだしわれらそのしよしはなん
給 蓋 我 等 其 諸 子 爾

ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼 我 善 牧 者 慶

べよ。

【 復活のコンダク 第7調 】

いまもいつもよよにアミン。
今 何 時 世 世

しのけんはすでにひとびとをとらうるあた
死 權 已 人 人 捕 能

わず、けだしハリストスはくだりてそのち力
蓋 降 力

からをやぶりてほろぼしたまえり。ぢご
 敗 滅 給 地 獄
 くはしばられ、よげんしゃはどうしんによろ
 縛 預 言 者 同 心 喜
 こびてよぶ、きゆうせいしゅはしんにおる
 呼 救 世 主 信 居
 ものにあらわれたり、しんじゃよ、ふく
 者 現 信 者 復
 か つ して い い で よ 。
 活 出

【 聖三の歌 】

代禱) ^{しゅ}主よ、^{けいけん}敬虔なる^{もの}者を^{すく}救い、^{およ}及び^{われら}我等に^き聆き^{たま}給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ
 主 敬 虔 者 救 及 我
 らにききたまえ。
 等 聆 給

代禱) ^{よよ}世世に、

ア ミ ン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
 聖 神 聖 勇 毅 聖

じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う き、 せ い
 聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う き、
 聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み、 せ い な る ゆ う
 聖 神 聖 勇

き 毅、 せ い な る じょう せい の も の よ、 わ れ ら を
 聖 常 生 者 我 等

あ わ れ め よ 。
 憐

【 プロキメン 主日第7調 】

代禱) 睿智、

誦經) プロキメン、^{しゅ そのたみ ちから たま}主は其民に力を賜い、^{しゅ そのたみ へいあん ふく くだ}主は其民に平安の福を降さん、

しゅ は その た み に ち か ら を た ま い 、 しゅ は
主 其 民 力 賜 主

そ の た み に へ い あ ん の ふ く を く だ
其 民 平 安 福 降 だ

さ ん。

誦經) ^{かみ しよし}神の諸子よ、^{しゅ けん}主に獻ぜよ、^{こうえい ぞんき}光榮と尊貴とを^{しゅ けん}主に獻ぜよ、

しゅ は その た み に ち か ら を た ま い 、 しゅ は
主 其 民 力 賜 主

そ の た み に へ い あ ん の ふ く を く だ
其 民 平 安 福 降 だ

さ ん。

誦經) ^{しゅ そのたみ ちから たま}主は其民に力を賜い、

しゅ は そ の た み に へ い あ ん の ふ く を く だ
主 其 民 平 安 福 降 だ

だ さ ん。

【 使徒經 (アポストロス) 280 半端 ティモフェイ前書1章15節~17節 】

代禱) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴェルがティモフェイに達する書の讀、

代禱) 謹みて聽くべし、

誦經) 子ティモフェイよ、ハリストス イイスは罪人を救わん爲に世に來たれり、此れ信なる、

全く受くべき言なり、罪人の中我第一なり。然れども我が矜恤を蒙りしは、イ

ス ハリストスが先づ我に於て全き寛忍を示して後、彼を信じて永遠の生命を得ん

と欲する者の模範と爲さん爲なり。願わくは尊敬と光榮とは、萬世の王、壞る可から

ず見る可からざる獨一睿智の神に、無窮の世に歸せん、アミン。

(比較用 口語訳) 我が子テモテよ、「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」という言葉は、確實で、そのまま受け入れるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限らない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである。世々の支配者、不朽にして見えざる唯一の神に、世々限りなく、ほまれと栄光とがあるように、アアメン。

【 アリルイヤ 主日第2調 】

代禱) 睿智、

Musical notation for the first line of the hymn: ア リル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、

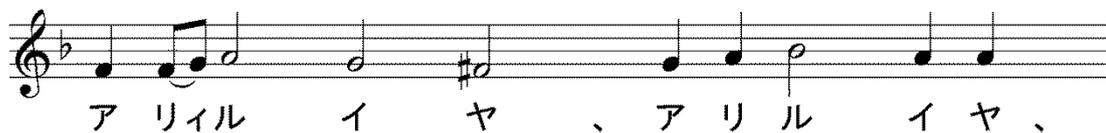
Musical notation for the second line of the hymn: ア リ ル イ ヤ 。

誦經) 願わくは主は憂の日に於て爾に聽き、イアコフの神の名は爾を扨ぎ衛らん、

Musical notation for the first line of the hymn: ア リル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



誦經) ^{しゅ}主よ、^{おう}王を救え、^{すく}又我等が^{またわれら}爾に^{なんぢ}呼ばん時、^よ我等に^{とき}聴き^{われら}給え、^きたま



【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書93 端 18 章35~43 節 】

代禱) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{でん}ルカ傳の^{せいふくいんけい}聖福音經の^{よみ}讀、



代禱) ^{つつし}謹みて^き聴くべし、

誦經) ^か彼の^{とき}時^{ちか}イスス、^{とき}イエリホンに^{あるめしいみち}近づける^{かたわら}時、^ざ或^こ瞽者道の^{たみ}旁に^す坐して^{たま}乞えり。民の^す過ぐ

^きるを^こ聞きて、^{なにごと}是れ何^と事^{ひとびとかれ}ぞと^す問えば、^つ人人^{かれ}彼に^すイスス^つナゾレイの^{かれ}過ぐる^つなりと^つ告げたり。彼

^よ呼びて^い曰えり、^こダヴィドの子^{われ}イススよ、^{あわれ}我を^{さき}憐^ゆめ。前^{ものかれ}に行く^{いまし}者^{もだ}彼を^{もだ}禁めて^{もだ}黙さしむれ

^{かれい}ども、^い彼^よ愈^こ大に^{われ}呼べり、^{あわれ}ダヴィドの子よ、^{とどま}我を^{かれ}憐^{たづさ}め。イスス^{たづさ}止りて、^{たづさ}彼を^{たづさ}攜え

^{きた}來るを^{めい}命じ、^{そのちか}其^{とき}近づき^{これ}し^と時、^い之に^わ問いて^{なんぢ}曰えり、^{なに}我が^な爾に^{ほつ}何を^{かれ}爲さん^{かれ}ことを^{かれ}欲するか。彼

^い曰えり、^{しゅ}主よ、^わ我が^み見る^えを得ん^{かれ}ことを。イスス^い彼に^み謂えり、^え見る^{なんぢ}を得よ、^{しん}爾の^{なんぢ}信は^{すく}爾を^{すく}救

^{かれただち}えり。彼^み直^えに見る^{かみ}を得、^{さんえい}神を^{したが}讚^{しゅうみん}榮して、^{これ}イススに^み從^{さんび}えり。衆^{かみ}民^{かみ}是^{かみ}を見て、^{かみ}讚美^{かみ}を^{かみ}神

き
に歸せり。

(比較用 口語訳) イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道ばたにすわって、物ごいをしていた。群衆が通り過ぎる音を耳にして、彼は何事があるのかと尋ねた。ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと言われたので、声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」。そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった。彼が近づいたとき、「わたしに何をしてほしいのか」とおたずねになると、「主よ、見えるようになることです」と答えた。そこでイエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになった。そして神をあがめながらイエスに従って行った。これを見て、人々はみな神をさんびした。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し、光 榮

はなんぢにきす。
爾 歸 す。

※ 代式祈禱③へ